

食育だより

糸田町立糸田小学校
栄養教諭 安倍 ちか

田川郡学校給食会において本年度実施した主な事業についてご報告いたします。

10月9日、中元寺小学校で平成26年度・27年度田川郡学校給食会研究指定の研究発表会（研究主題「豊かな心とたくましい体をそなえた子どもの育成」～家庭や地域と連携し、体験活動を取り入れた食に関する指導を通して～）が開催され、食に関する授業の公開、2年間にわたる研究の報告、ふるさと料理人である藤 清光先生の講演等が行われました。

研究報告においては、目標達成に向けて“学力アップ”、“体力アップ”、“心力アップ”の3つのチームを構成して地域素材の教材化や体験活動（栽培活動や農業体験、実験など）を取り入れた学習の工夫をしたり、食育との関連を図った単元構成の工夫をしたりするなど家庭や地域との連携を密にした取組が大変参考になりました。

10月15日には、福岡県学校給食会で福岡県学校給食料理コンクールが開催され、田川郡からは、大任町学校給食センターの調理員 長原美穂さんが出場し、見事に牛乳利用料理の特別賞を受賞されました。「肉巻き椎茸の柚子ごしょう風味やブロッコリーのレモン和え」など地場産物の効果的な活用や日ごろの調理技術が発揮され、評価されました。

養護だより

福智町立金田小学校
養護教諭 藤田 由美

田川郡学校保健会では11月26日に久留米市の医療機関を視察研修しました。

午前中は「のぞえ診療総合病院」を訪問しました。院内では、医師や看護師のみなさんが私服だったことに驚きました。病院の説明によると、患者さんから見ると、診察や治療は不安なことであり、中には白衣が気になる方もおられるそうです。患者さんの不安を取り除く環境作り、力を入れていると聞きました。また、外来や病棟だけでなく、宿泊型自律訓練施設や多機能型就労支援事業を医療共同体として、治療や支援に役立てていました。最後に、どんなことでも相談に来てくださいと、言ってくださいました。この最新の精神医療を子どものことで悩んでいる保護者に紹介できるなど感じました。

午後からは最新の救急医療体制が整っている「久留米大学高度救命救急センター」を訪問しました。医師から、実際にドクターカーやドクターヘリの見学と説明をしていただきました。本当に狭い空間の中で行っている救急処置を知り、お世話にならないようにしなければならない反面、これだけ進んでいる医療体制に安心させられました。これから私たち養護教諭も最新の救急をいろんな機会学び、活用していかなければならないと思いました。午前午後ともに大変有意義で充実した研修ができました。

田川郡教育研究所

[所在地] 〒825-0002
田川市伊田松原通り 3292-2 田川総合庁舎 筑豊教育事務所田川駐在内
[TEL・FAX] 0947-47-1081
[E-mail] tagawa-lab@fukuoka.email.ne.jp
[URL] http://www.tagawa-lab.sakura.ne.jp/

所長	平野 志津夫	副所長	重藤 公暢（赤中学校 校長）
副所長	小峠 英人（中津原小学校 校長）	書記	有田 真理子
幹事	小峠 英人（中津原小学校 校長）	主任指導員	柴田 徹（糸田中学校 教頭）
主任指導員	藤田 昭介（糸田小学校 教頭）	指導員	中野 純孝（方城中学校 主幹教諭）
指導員	神崎 育子（真木小学校 主幹教諭）	指導員	長畑 理恵（川崎中学校 主幹教諭）
指導員	宮成 努（香春小学校 主幹教諭）		

田川郡教育研究所

所報

第111号

発行日 平成28年3月1日
発行所 田川郡教育研究所
http://www.tagawa-lab.sakura.ne.jp/

平成27年度 田川郡教育研究所の主な実績

I 研究

1 田川郡教育研究所の研究主題に基づく実践及びデータの収集

- (1) 研究主題の設定
「学習指導と評価に関する研究」（5年次）
～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～
- (2) 田川郡内小・中学校教科等部会での研究員を中心とした情報交換及び研究・実践

2 教育資料の収集と整備及び活用の奨励

- (1) 田川郡内外小・中学校の実践事例等の収集

II 人材育成

1 研修

- (1) 研修員研修会
- (2) 研究員研修会
- (3) 教育実践発表会並びに教育論文表彰式・発表会
- (4) 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会
- (5) 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会
- (6) 教育実践研究に関する研修会
- (7) 講師等授業力アップ講座

2 支援

- (1) 小・中学校教科等部会への研究奨励と支援
- (2) 田川郡小・中学校人材育成プログラムへの支援と助成

III 発行物等

1 研究物等の発行

- (1) 研究紀要（CDでの配布）
- (2) 所報（年間2回発行）
- (3) 教職員名簿

2 ホームページでの情報提供

- (1) 研究所の研究・活動内容及び田川郡内の教育関係情報等の紹介
- (2) 教育実践等の紹介
- (3) 研修会のお知らせ

IV その他

- 1 田川郡教育研究所教育論文の募集・審査・表彰
- 2 総会の実施（1回）
- 3 研究所理事研修会の実施（2回）
- 4 所内会議（随時）

研究の概要

1 研究主題

「学習指導と評価に関する研究」(5年次)
～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～

2 主題の意味

(1) 学習指導とは

学習指導とは学習者の学習を援助し促進する教師の営みであり、学習者の知識・理解・技能・思考・表現等の能力、及び学習意欲・態度を能率的・効果的に学習が行われるようにする教育活動である。今回の学習指導要領の改訂では基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならないとしている。このことから本主題の学習指導とは、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけさせるとともに、国語科では、言語能力を培い、他の教科においては、思考力・判断力・表現力等を育成するための手立てとして言語活動を充実させる教師の能率的・効果的な教育活動を指す。

(2) 評価とは

評価は、子どもの学習状況を知り、学習目標の設定や指導方法の工夫などの改善に役立てるためのデータを得る活動である。今回の学習指導要領の改訂により、評価の観点に変更され、「技能・表現」が「技能」となり、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となった。これは、言語活動の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能を活用して思考力、判断力、表現力を高める学習指導が重視された結果に他ならない。新しく設定された観点である「技能」は、教科内容としての表現力をこれまで通り評価することになる。一方、「思考・判断・表現」で示された表現は、これまでの「技能・表現」で示されていた表現とは異なり、「思考・判断」したことの過程や内容がわかるように言語で表現するものである。そのため、学習指導において言語活動の充実が図られているわけである。よってこれからの評価は、思考力、判断力、表現力を評価することが重視されることとなる。つまり、本主題の評価も思考力、判断力、表現力を第一義に児童生徒の能力を見取り、計画・指導・評価・改善を有機的に結びつけることを指す。

(3) 学習指導と評価に関する研究とは

思考力・判断力・表現力を育むための、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習指導のあり方、及びそれらの力が身に付いたかどうかを見取る新しい評価について、各教科等部会ごとに教育実践研究を行い、各教科の特性及び田川郡の実態に応じた指導と評価のあり方について究明することを指す。

3 主題設定の理由

(1) 社会の要請と教育改革の動向から

知識基盤、グローバル社会化など社会が急速に変化し価値観が多様化する現代、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考に基づき判断することや異なる文化や歴史や立場にある人々と尊重し合って共存していくことなど、変化に対応し問題をよりよく解決する能力が一層求められている。

しかし、OECDのPISA調査、全国学力・学習状況調査など国内外の各種学力調査結果によると、我が国の子どもたちの課題として、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことがあげられている。

これらの状況を踏まえ、中央教育審議会で審議・答申が重ねて行われた。そして教育基本法、学校教育法が改正される中、小学校において平成23年度から、中学校においては24年度から新学習指導要領が完全実施された。新学習指導要領は、子どもたちの現状に鑑み「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」を育むという理念を中核にすえたものであり、とりわけ「確かな学力」については、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、知識技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成しながら学習に取り組む意欲を養うことを重視するという、バランスのとれた学力の育成をめざしたものになっている。特に改訂にあたって充実すべき重要事項の第1番目として「言語活動の充実」があげられ、各教科を貫く改善の視点として示された。

平成27年度 ふくおか教育論文 応募者・入賞者

No.	所属校名	職名	氏名	応募部門	応募内容	受賞
1	採銅所小学校	教諭	宮崎 崇	生涯学習	社会人対象 『子どもに自信を持たせ質の高い学力を身につけさせるための家庭教育の在り方』	
2	今任小学校	教諭	浅山 大輔	学校教育	特別支援教育 『A児の読みの流暢性を高める学習指導』	
3	添田小学校	教諭	安藤 紗希	学校教育	算数科 『論理的に考え、表現する子どもを育てる第五学年算数科学習指導』	
4	川崎小学校	教諭	高瀬 大輔	学校教育	生徒指導 『子どもたちの自己指導能力を高める生徒指導の一考察』	
5	川崎東小学校	教諭	安倍 和音	学校教育	国語科 『叙述を根拠に自分の考えを形成し、表現する力を育てる第四学年国語科学習指導』	
6	糸田小学校	教諭	國本 裕司	学校教育	国語科 『確かな読みの力を育てる国語科説明的文章の学習指導』	
7	市場小学校	教諭	大久保 香世子	学校教育	算数科 『数学的な思考力・表現力を育てる第2学年算数科「数と計算」領域における学習指導』	
8	池尻中学校	教諭	上田 苑加	学校教育	国語科 『説得力のある文章表現ができる生徒を育成する国語科学習指導の研究』	奨励賞
9	赤池中学校	教諭	浅香 結美子	学校教育・運営	校内研修 『インクルーシブ教育システムの構築を目指した特別支援教育の推進』	

平成27年度 田川郡教育研究所教育論文 応募者・入賞者

No.	所属校名	職名	氏名	応募部門	応募内容	受賞
1	川崎小学校	教諭	高瀬 大輔	現代課題	生徒指導 『子どもたちの自己指導能力を高める生徒指導の一考察』	佳作賞
2	糸田小学校	教諭	國本 裕司	学習指導法	教科指導 『中心を明確にして書くことができる子どもを育てる第3学年国語科学習指導』	
3	赤池中学校	教諭	早川 昌宏	学習指導法	基礎基本の徹底 『数学の楽しさを実感し、意欲的に学ぶ生徒を育てる数学科学習指導』	

◆『教育実践研究に関する研修会』受講者

No.	所属校名	職名	氏名	教科等
1	大任中	教諭	後藤 健太	国語

◆『講師等授業力アップ講座』受講者

No.	所属校名	職名	氏名	教科等
1	香春小	講師	若槻 亜紀	国語
2		講師	松島 あや	国語
3		講師	和田千恵子	算数
4	勾金小	講師	岡村 嘉子	算数
5	中津原小	講師	川上 沙織	算数
6		講師	宮島 啓人	算数
7	赤小	講師	武末 三奈	国語
8		講師	松岡 綾	国語
9		講師	上村 勇広	算数
10	中元寺小	講師	井村 昂	国語
11	真木小	講師	藤島 加代	算数
12		講師	山口 明恵	算数
13	川崎小	講師	福家 和馬	算数

No.	所属校名	職名	氏名	教科等
14	川崎小	講師	牛尾 啓成	算数
15	川崎東小	講師	木村 誠治	国語
16		講師	友永 宗興	算数
17	真崎小	講師	平井 武道	国語
18		講師	安藤 真	算数
19	糸田小	講師	山内 葉月	国語
20		講師	田中 さやか	国語
21	勾金中	講師	谷川 祐太	理科
22	赤中	講師	高石 大一郎	理科
23	大任中	講師	桑野 善徳	理科
24	金田中	講師	田中 勇輝	理科
25	方城中	講師	梶 東正一郎	国語
26		講師	岡崎 龍	算数

平成27年度 研修員研修会を受講して

『数学的な思考力・表現力を高める算数科学習指導』 ～自力解決に向けた支援と交流活動の工夫を通して～

香春町立勾金小学校 教諭 山口 大介

平成27年度研修員として、本研修を受講させていただきました。この研修では、論文の書き方や実践の進め方、検証の仕方などを学びました。実践を行う中では、悩んだことや苦い思いをしたこともありましたが、非常に学ぶことの多い一年間でした。また、自分で問題を解けた算数の苦手な児童や、説明を上手にできた児童の笑顔がたくさん見ることができた一年でもありました。本研修で学んだことは、これから生かしていきたいと思えます。

最後になりますが、ご指導いただきました多くの先生方に心よりお礼申し上げます。

『論理的に読み表現する力を育てる第5学年国語科学習の指導』 ～問いをもちながら考える学習展開の工夫を通して～

福智町立上野小学校 教諭 福間 理紗

私は、この研修を通して研究の進め方について学ぶことができました。主題や副主題では、どのような子どもたちに育てたいのか、そのために何をしたらよいか悩み、なかなか決めることができませんでした。しかし、このように目的と手段を考えることは、研究をする時だけでなく、平日頃の授業や生活の中においても大切なことだと思います。今回の研究によって、自分自身がそのことを意識しながらできたこと、そして少しではありますが子どもたちに成長が見られたことが、私にとって大きな成果でした。この成果と、課題として残ったことをもとにこれからも研修に努め、子どもたちの笑顔があふれるような授業づくり、学級づくりに取り組んでいきたいと思えます。一年間ご指導いただきありがとうございました。

『科学の目を持ち、自ら探求していく生徒の育成』 ～身近な生活との関連を意識した教材の工夫を通して～

福智町立金田中学校 教諭 瀬戸口 真司

私はこの研修を通して、自らの授業に足りない部分について追求することができました。また、研究の計画段階において、生徒の変容を見るためのデータの取り方など、論文の説得力をつくるために大切なことは何かを学ぶことができました。実証授業において生徒が関心を持って取り組んでいる姿や、生徒の意識の変容をたくさん目の当たりにしました。論文をまとめ終わった後も同じ目標を持って教材研究をし、生徒の「科学の目」を育てるために力を尽くしていきたいと思えます。

『社会科(地理的分野)における「表現力」を育む授業づくりの研究』 ～授業構成と関連付けたワークシートの工夫を通して～

福智町立方城中学校 教諭 植田 泰司

本研修を受講できたことで、多くのことを学ぶことができました。「どうしたら、生徒は地理的分野に興味を持ってもらえるか」、「どんな手立てを取れば、生徒は自分の意見が持てて、表現することができるのか」など様々な視点から授業を見つめ直しました。大変だったことは、いかに生徒に社会的事象に気付かせるのか、どの資料を比較すると原因がわかるのかと言った資料の準備や教材研究に苦労したことです。しかし、めざす生徒像が明確になったことで、検証授業での様々な手立てを打つことができたように思えます。今回の研修で学んだことや見えてきた課題に対して、更に授業実践を積み、生徒が興味・関心を持って授業に参加できるよう授業改善を重ね研究に邁進していきます。

以上のようなことから、各教室において展開される学習指導においては、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成すべく言語活動を充実させるとともに、それらが確実に身に付いたかどうかを見取る学習評価の充実が図られなければならない。

(2) 田川郡の児童生徒を取り巻く状況から

平成23年5月、故山本作兵衛氏の描いた炭坑記録画がユネスコの世界記憶遺産に登録されたことは、田川に明るいニュースとなった。しかし、エネルギー革命による炭鉱閉山の嵐から半世紀経とうとしているが、その時の生活環境の激変は今でも田川の児童生徒に多くの面で影響を及ぼしている。

本郡の状況を見ると、経済的に厳しい状況にある家庭が依然として多いこと、基本的な生活習慣が定着しにくいこと、将来への肯定的な展望をもちにくく不登校が増えていることなどの課題が挙げられ、依然、子どもたちの学力の向上と進路の保障が大きな課題とされている。

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、徐々に改善は見られるものの依然全国平均よりもかなり低い数値であり、特に思考力・判断力・表現力を問うB問題でポイント差は顕著である。

したがって、子どもたちの学力向上と進路保障を実現するためには、基礎的・基本的な知識技能を確実に習得させるとともに、知識技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高める教育実践研究が喫緊の課題である。

(3) これまでの研究の経過から

当研究所では、平成10年度から平成14年度まで、「生きる力」の育成に向けて研究を積み重ねてきた。これらの研究は、授業づくりや評価活動、子どもたちの学力の向上、田川郡の教育のあり方の改善に一定の成果をあげた。

これらの研究を基礎に、平成15年度から平成17年度までの3年間、学力実態及び学力向上に関する調査・研究に取り組んできた。調査の結果では、郡内全体の平均点は依然として小中学校とも全国平均を下回っているという実態であった。

学力実態と学力向上に関する調査・研究を受け、平成18年度から22年度まで「学力向上の取り組みに関する研究」という主題に基づいて、一人一人の子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身につけるためにバランスのとれた教育を実施することにより、真に「生きる力」を育成する実践研究に取り組んできた。実施のあり方として、小中学校校長会主催による教科等部会と連携し、各教科・領域部会において学力分析を行い、子どもの実態把握の上に実践研究を進めてきた。

年 度	研 究 主 題
平成10～11年度	「生きる力」をはぐくむ授業づくり
平成12～13年度	「生きる力」を育てる総合的な学習
平成14年度	「生きる力」を育てる教育課程の展開 ～評価活動の充実をとおして～
平成15～17年度	学力実態及び学力向上の取組に関する調査・研究 ～学力検査結果の分析と実践事例の収集をとおして～
平成18～22年度	学力向上の取り組みに関する研究 ～生きる力を身につけた児童生徒の育成～
平成23年度～	学習指導と評価に関する研究 ～言語活動の充実を図った学習指導と 新しい評価の実践事例の収集を通して～

4 研究の目標

各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動において、新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけるための学習指導と評価方法について究明する。

5 研究の内容

- (1) 各教科・領域等の学力や児童生徒の実態を分析する。
- (2) 各教科・領域等における主題を設定する。
- (3) 各教科・領域等における主題を達成すべき学習指導と評価方法を明らかにする。
- (4) 各教科・領域等において主題に基づいた実践研究を行う。
- (5) 各教科・領域等において実践事例としてまとめ、成果と課題を明らかにする。

研究発表校の紹介

平成27年度 福岡県道徳教育推進事業
「福岡県の道徳教育の課題に応じた市町村による実践的研究」
香春町立香春小学校

1 実施日 平成27年11月21日（金）

2 研究主題 「私たちの道徳の効果的活用」

3 研究の特色
児童の道徳性を養うために、「私たちの道徳」の効果的な活用方法について、道徳の時間および道徳の時間以外での活用方法について検証した。

① 道徳の時間の活用について
「私たちの道徳」を学習活動のどの段階で、どのように活用することで、本時でねらいとしている道徳的価値が深まるのか検証を行った。

- 「導入」・・・意欲付け、主題に関わる問題意識
- 「展開」・・・自己を見つめる、本音を引き出す（発問の工夫）
- 「終末」・・・自分の考えや学びの整理、道徳的価値のまとめ、道徳的实践意欲

また、工夫次第では「私たちの道徳」のコラムやイラストなども1時間の道徳の時間の中心資料として活用ができることがわかった。

② 道徳の時間以外での活用について
「私たちの道徳」は、道徳の時間だけでなく、さまざまな授業や教育活動の場面、家庭や地域と連携して活動できるように工夫されている。日常的、計画的に活用するために、活用計画を作成したり、活用のための共通理解等を図ることが大切である。



【1年生 学級活動での活用】



【校内掲示物として活用】

4 成果
○ 道徳の時間だけでなく、それ以外の場面においても活用したことで、「私たちの道徳」の活用の幅が広がった。
○ 「私たちの道徳」を効果的に活用しようと授業作りに取り組んだことで、「道徳の時間」の指導方法の工夫改善が図れた。

中学校教科等部会 活動報告

【英語科部会】 校長 縄田 哲也
英語部会では、学力向上と、「読む」「聞く」「話す」「聞く」という四技能の統合を図る授業づくりをテーマにし、11月10日に方城中学校において公開授業・研究協議を実施しました。当日の公開授業では、知識理解をどのように技能の定着に生かすかについての提案を、協議を通して授業内容の意味づけ・価値付けを行いました。また、当日は、会員19名が参加し、今後の英語教育の方向性についての共通理解を図ることができました。

【道徳部会】 校長 白石 毅
・総会及び研修会（7/1）
組織づくり、年間計画作成、実態交流研修
・公開授業研究会（9/18）香春中学校
【授業者・報告者・内容項目】
武田倫明先生「集団生活の向上」4-(4)
山本秀明先生・鷲尾佳子先生「家族愛」4-(6)
田中朋美先生「理想の実現」1-(4)
・福岡県中学校道徳教育研究大会参加（11/6）
（兼 筑豊地区中学校道徳教育研究大会）
於 飯塚第一中学校

【総合的な学習の時間部会】 校長 白石 俊幸
本年度の研究テーマ
「実践の交流」
6 / 30 田川地区総合部会…組織、役割分担
11 / 20 平成27年度実践報告会・講演会
（筑紫野生涯教育センター）
1月 平成27年度の実践報告

【特別活動部会】 校長 重藤 公暢
・総会（6月 赤中学校）
組織づくり、年間活動の作成及び確認
・第20回 福岡県中学校特別活動研究大会
実践発表 方城中学校
教諭 植田 泰司
「学級一人一人の意見を活かす学級活動」

平成27年度 教育実践発表者の紹介

- ◆平成27年度 田川郡教育研究所教育実践発表会並びに教育論文表彰式・発表会
 - ◇添田町立添田小学校 教諭 宮村 歩 先生
『学力向上をめざした取組』
～「学ぶ意欲を高める集団づくり」「学力向上の土台となる基礎基本の徹底」「思考力・表現力を高める授業づくり」を通して～
 - ◇福智町立赤池中学校 教諭 浅香 結美子 先生
『インクルーシブ教育システム構築を目指した特別支援教育の推進』
～スクールクラスターの活用と校内支援体制の整備を通して～
 - ◇川崎町立川崎小学校 教諭 高瀬 大輔 先生
『自分の考えを筋道立てて表現する子どもを育てる第6学年算数科学習指導』
～「問いづくり」「思考づくり」「価値づくり」の3つの場における思考の焦点化と可視化の支援を通して～
- ◆平成27年度 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会
 - ◇福智町立赤池中学校 教諭 大井 喜幸 先生
『運動する物体のエネルギーの移り変わりをエネルギー量の変化で捉える生徒を育てる中学校理科学習指導』～エネルギーグラフを用いた学習活動を通して～
- ◆第44回 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会
 - ◇川崎町立川崎東小学校 教諭 安倍 和音 先生
『叙述を根拠に自分の考えを形成し、表現する子を育てる第4学年国語科学習指導』
～4つの言語活動の場の位置づけを通して～

中学校教科等部会 活動報告

【国語科部会】 校長 白石 毅

- ・総会及び研修会（6/24）
組織づくり、年間計画作成
- ・筑豊地区中学校国語科研究大会参加（7/27）
- ・田川郡書写大会の実施（10/14）
- ・県中学校国語科研究大会参加（10/23）豊前市
- ・公開授業研究会（11/7）添田中学校
- 【授業者】添田中学校 上田 佳苗 先生
1年 読むこと「いにしへの心にふれる」
「蓬萊の玉の枝－『竹取物語』から」
- ・JA作文募集及び審査

【数学科部会】 校長 堀川 浩昭

- 本年度の研究主題
確かな学力を育む数学科学習指導法
- 第1回部会（6月24日）
研究テーマの確認、今年度の組織づくり
研修計画作成、活動内容の確認
- 第2回部会（公開授業：10月23日）
・会場 糸田中学校
・授業者 徳永 章宏 先生
・単元名 第3学年 「相似な図形」
- その他 （年間のまとめ等）

【音楽科部会】 校長 友松 秀樹

- 研究テーマに沿った組織・活動計画策定
- 公開授業
・合唱 9月 授業者 金田中 田端幸彦
・鑑賞 9月 香春中
「ゴスペル SOULMATICS」
- ・鑑賞 9月 金田小「合唱 二期会」
- 各校合唱コンクールへの協力体制づくり
- 中音研各行事への参加
- 研究紀要の原稿審議および交流
執筆 方城中 川原 典子

【保健体育科部会】 校長 高橋 孝徳

- 第1回 保健体育部会
・組織づくりと年間計画の作成
・熱中症について（講師招聘研）
- 公開授業（10月5日（月）於大任中）
・単元 球技 ネット型 バレーボール
・授業者 大任中 松尾輝将 教諭
- 第2回 保健体育部会
・本年度各校の体力向上プランの集約
・次年度に向けての組織づくり（案）の作成

【社会科部会】 校長 三賀山 宏

- 総会 6月24日（水） 香春中学校
・組織づくり、年間指導計画作成
・本年度の研究テーマ
「思考力・判断力・表現力を高める
社会科指導の工夫」
- ・研究員・報告者 坂本尚之（添田中学校）
- 研究授業 10月2日（金）大任中学校
・授業者 奥村利恵（大任中学校）
・単元名 「わたしたちのくらしと経済」
- 研究紀要執筆、審議（12月）

【理科部会】 校長 坂本 和紀

- 組織づくり、研修計画作成（6月）
- 公開授業（10月）
・会場 糸田中学校
・授業者 古門千恵 先生
・単元名 「水溶液とイオン」
- 実験講習会（11月）
・会場 赤池中学校
・講師 小泉憲司 先生
・内容 身近な物理現象、化石レプリカ等

【美術科部会】 校長 村上 きぬよ

- ・福岡県中学校美術教育研究大会に向けた研究紀要の作成及び発表会準備
- ・第59回福岡県中学校美術教育研究大会筑豊大会開催（11/6 福智町立赤池中学校）
研究テーマ「豊かな情操を養う美術科学習指導法の研究」
- 公開授業「郷土の文化を活かした卒業共同制作」 授業者 中嶋千鶴先生（赤池中）
講演「郷土の文化を子どもたちの未来に活かす」 田川市石炭・歴史博物館館長安藤龍生氏

【技術・家庭科部会】 校長 重藤 公暢

- ・総会（6月 赤中学校）
組織づくり、年間活動の作成及び確認
- ・公開授業研修会（9月 鷹峰中学校）
技術科 主幹教諭 青柳 敏広
「材料と加工に関する技術」
- ・福岡県中学校技術・家庭科研究大会 参加（10月 福岡市）
- ・福岡県中学校技術・家庭科作品展 作品展示（2月 筑前）

研究発表校の紹介

平成27年度 福岡県道徳教育推進事業「地区別道徳教育研究協議会」

香春町立採銅所小学校



- 1 実施日 11月20日（金）
- 2 研究課題
「私たちの道徳」の効果的な活用

3 研究の特色・実践
「特別の教科 道徳」への移行を前に、福岡県道徳教育推進事業の委嘱を受け、「私たちの道徳」を活用し、多用で効果的な道徳の時間の指導の在り方を探るため、以下の4点に取り組んだ。

- (1) 道徳教育の年間指導計画に「私たちの道徳」活用のための位置づけを図る
○年間指導計画に「私たちの道徳」の活用箇所、活用場面、活用内容、活用目的と方法について記入欄を設け、資料との関連を明確にした。
- (2) 道徳の時間における私たちの道徳の効果的な活用の仕方を探る
○「私たちの道徳」を活用した道徳の各時間の成果と課題をまとめ、活用の見直しと改善に取り組んだ。
- (3) 道徳性の実態調査・分析を行い、子どもたちの意識の変化を把握する
○県の様式を活用し、全学年の道徳性の実態調査を6月と1月に実施した。
- (4) 道徳の授業についての理論研究を行い、職員の共通理解を図る
○指導主事を招聘し理論研究を行い、1学期中に全学年が指導主事参加の中で授業研究を行った。また、先進校への視察を行い、研修を深めた。

4 成果

- (1) 道徳教育の全体計画や年間指導計画を見直し、新たに「私たちの道徳」の活用法を加えた指導計画を作成することができた。
- (2) 「私たちの道徳」を活用する場面が増え、また工夫して活用するようになり、「私たちの道徳」の効果的な活用法が少しずつ明らかになってきた。
- (3) 子どもたちも「私たちの道徳」を意欲的に活用し、道徳的価値について自ら考えるようになってきた。
- (4) 指導主事の招聘を計画的・継続的に行い、研修を進めてきたので、教職員の道徳教育への意識が高まり、道徳の授業が改善された。

【授業者も参加してのグループ協議】



研究発表校の紹介

平成26年・27年度 田川郡学校給食会研究指定・委嘱

添田町立中元寺小学校

1 実施日 平成27年10月 9日(金)

2 研究主題

豊かな心とたくましい体をそなえた子どもの育成
～家庭や地域と連携し、体験活動を取り入れた食に関する指導を通して～

3 研究の概要について

(1) 研究の目標と内容

豊かな心とたくましい体をそなえた子どもを育成するために、家庭や地域と連携し、体験活動を取り入れた食に関する指導の在り方を究明する。

そのために、食に関する指導の内容から「食事の重要性」「心身の健康」「感謝の心」をふまえた単元構成を各教科・領域でおこない、家庭や地域と連携し体験活動を様々な場面で仕組んでいった。

(2) 研究の実際

ア 学力アップチームからの提案による取組
・通信等による啓発を通して家庭と連携した食育の推進。

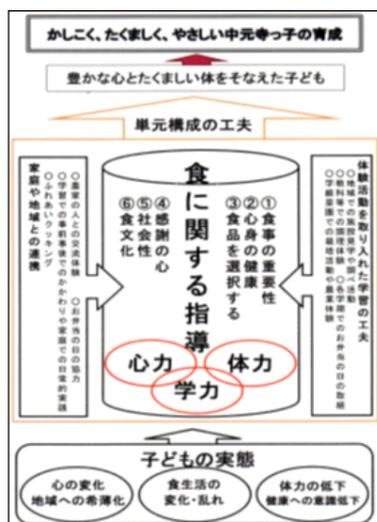
・体験学習(栽培活動、調理、見学、実験、現地で調べる)を取り入れた学習の工夫。
・食育の目標と関連付けた単元構成の工夫。

イ 体力アップチームからの提案による取組
・新体力テストの結果を基にしたパワーアップトレーニングを取り入れた体育の授業づくり。

・歯や口の健康に関する指導など生活習慣の振り返りや基本的生活習慣の育成。
・食育の基盤としての体力作りを行い、健康で活力のある生活を営むための能力づくり

ウ 心力アップチームからの提案による取組
・「食事の重要性」「心身の健康」「感謝の心」に焦点をあてた道徳授業の工夫。

・子どもの食事観・食習慣の形成を図るための食環境の整備、掲示の工夫、お弁当の日を通じた実践的な食への意識化。
・給食委員から食材の特徴や説明など、季節・行事に関係のある食に関する情報の紹介。



4 研究の成果

成果として、次のような児童の変容が見られた。

- ①自分から進んで嫌いなものでも食べようとする児童が増えた。
- ②食に関する体験活動を取り入れることで、地域の食材に目が行き身近なものになった。
- ③通信等による啓発の結果、家庭でも和食が多くなった。

小学校教科等部会 活動報告

【体育科部会】 校長 石堂 昌彦

- 第1回部会 6月23日(糸田小)
組織づくりと年間計画及び4部会の情報交換
- 第2回部会 7月22日(糸田小)
タグラグビー実技講習及び領域別の実践交流
- 第3回部会 11月10日(金田小)
公開授業研 金田小 光尾 浩太 教諭
第5学年「仲間であそぶ! タグラグビー」
指導助言 スポーツ健康課体育健康教育班
指導主事 中野 一成 先生

【道徳部会】 校長 小峠 英人

- 第1回部会 6月11日(中津原小)
・組織作り年間計画及び研究代表者の決定
- 第2回部会 7月22日(中津原小)
・道徳の教科化についての研修
・同資料での指導案作成
・グループごとの発表
- 研究発表会参加(一部)
・香春町立採銅所小学校発表会への参加
・香春町立香春小学校発表会への参加
・福岡県道徳研究大会への参加(直方市)

【外国語活動部会】 校長 森 隆子

- 新学習指導要領改訂に向け、研修をしました。
- ① 6月23日(池尻小)
組織作りと年間指導計画及び各部情報交換
- ② 7月22日(池尻小)
外国語活動の動向と移行期の補助教材について
講師:小英語活動推進リーダー正野崎和子先生
- ③ 11月9日(川崎東小)
公開授業:川崎東小 西畑いせ先生
講師:筑豊教育事務所 田中啓子指導主事
- ④ 1月26日 まとめと次年度への課題整理

【特別活動部会】 校長 井上 憲治

- ・組織作りと活動計画・内容の確認
- ・低・高学年部会ごとの情報交換と交流
- ・授業研修会
(福岡県小学校特別活動研究会筑豊大会参加)
- ・まとめ及び次年度への課題整理
今年度は、12月2日(木)直方市立福地小学校で筑豊地区大会を開催することができ、部会員が多数参加することができました。みんなの熱い思いが研究協議で感じられ、盛会に終わることができました。

【特別支援教育部会】 校長 高上 克也

- 組織づくり、年間活動計画及び情報交換
- 講師研修会 講師:田川市立金川小学校 谷口 美穂 先生
講話:「特別支援教育の具体的取組について」
1. 特別支援教育に関する最近の情報 2. 特別支援学級での実践例
- 指導方法、支援についての実践交流及び年間の反省
交流内容:具体的な教材・教具の紹介、具体的実践、校内推進体制

◇ 平成27年度 研究員 [教科等部会]

教科・領域	職名	研究員名	小学校名
国語	教諭	國本 裕司	糸田小
社会	教諭	牟田 佳史	川崎東小
算数	教諭	千々岩 芳朗	赤小
理科	主幹教諭	藤川 和久	池尻小
生活・総合	教諭	中村 賢代	市場小
音楽	教諭	宮村 雅代	上野小
図画工作	教諭	石川 まゆみ	伊方小
家庭	教諭	宮村 歩	添田小
体育	教諭	光尾 浩太	金田小
道徳	教諭	木村 直美	勾金小
外国語活動	講師	松田 美穂	勾金小
特別活動	教諭	大久保 利詔	川崎東小

教科・領域	職名	研究員名	中学校名
国語(書写)	教諭	山下 久美子	鷹峰中
社会	教諭	坂本 尚之	添田中
数学	教諭	今道 憲治	鷹峰中
理科	講師	谷川 佑太	勾金中
音楽	教諭	川原 典子	方城中
美術	教諭	真武 祐二	鷹峰中
保健体育	教諭	佐々木 佳子	赤池中
技術・家庭	主幹教諭	青柳 敏広	鷹峰中
英語	教諭	田中 祥生	赤中
道徳	教諭	大塚 栄子	勾金中
総合的な学習	教諭	高柳 麻巳	大任中
特別活動	教諭	植田 泰司	方城中

小学校教科等部会 活動報告

【国語科部会】 校長 渡邊 伴子

- ・講師研修会
「国語科学習指導の基礎・基本」
福智町教育委員会 桑野 徳隆 指導主事
- ・講師研修会
「考える国語の授業づくり (物語文・説明文)」
筑豊教育事務所 中山 博紀 指導主事
- ・公開授業研修会
上野小学校 福間 理紗 先生
- ・福岡県児童文集田川郡審査
- ・福岡県児童書写田川郡審査

【社会科部会】 校長 高瀬 美智也

- ・組織作り及び年間研修計画の作成
各学年の交流及び全体交流
- ・フィールドワーク
場所：小石原焼伝統産業会館
関連する学習内容
4年生「焼き物を生かしたまちづくり」
- ・学習指導案事前研究会
授業者 採銅所小学校 教諭 宮崎 崇先生
単元名 「伝統の技を受け継ぎ・生かす」
- ・授業実践 (雪のため中止)

【算数科部会】 校長 太田 亮一

- 組織作りと活動計画作成及び今年度の研究方向の決定
・活用能力を高めるための授業構成
- 指導案作成と授業実践
・各学年ごとに指導案を作成し実践
- 授業実践の報告
・授業を実施した結果の課題交流
・来年度に向けての改善案作成
- 教師の授業改善につながるミニ問題
・子どもの立場に立って教師が問題を解く

【理科部会】 校長 縄田 和之

- ・実践交流、学習指導情報交換
- ・講師招聘研修「観察・実験講習会」
講師：福岡教育大学名誉教授
中村重太先生
- ・筑豊地区小学校理科研究会研修会への参加
- ・福岡県小学校理科教育研究大会への参加
- ・まとめと次年度の課題整理

【生活科・総合的な学習の時間部会】
校長 中川 真一

- ・組織づくりと活動計画案の作成、情報交換
- ・講師招聘による研修会 (演習及び講義)
〈内容〉栽培活動等にかかわる講義・演習
〈講師〉福岡県教育センター
主任指導主事 平田 陽一 先生
- ・授業実践 各部会員
- ・本年度の反省とまとめ

【音楽科部会】 校長 船瀬 安仁

- 第1回 組織作り及び年間研修計画作成
- 第2回 講師招聘研修
講師 福岡教育大学附属福岡小学校
教諭 山口 由一郎 先生
内容 「音楽科における言語活動の充実」
- 第3回 授業研修会
授業者 福智町立上野小学校
教諭 宮村 雅代 先生
題材 「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」
- 第4回 実践交流及び協議、本年度のまとめ

【図画工作科部会】 校長 小山 秀宣

- 6月 組織作りと活動計画作成
- 7月 実技研修及び作品の相互鑑賞
- 12月 県小児童画展田川郡審査 (中元寺小)
県小児童画展筑豊地区審査 (鎮西小)
- 1月 研究発表会参加 (田川小)
「福岡県小学校図画工作科教育研究大会」
講師：田川市石炭・歴史博物館長
安蘇 龍生 氏

【家庭科部会】 校長 光井 美登利

- ・組織作りと年間計画
- ・実技講習会 指導：栄養教諭 鍋藤君江先生
5年生教材「家族とほっとタイム」
- ・プランに沿った指導案作成
- ・福岡県・筑豊地区家庭科教育研究大会参加
テーマ「豊かな家庭生活を築く
実践力を育てる家庭科教育」
～よりよい消費行動をつくる
学習指導を通して～
- ・授業実践の交流会 本年度のまとめ

研究発表校の紹介

平成27年度「福岡県道徳教育推進事業」に係る
福岡県の道徳教育の課題に応じた市町村による実践的研究

地区別道徳教育研究協議会 香春町立香春中学校



1 実施日 9月18日 (金)

2 主題

〈研究課題〉「私たちの道徳」の効果的な活用

3 研究の特色

「道徳の時間」において、導入、展開、終末等、様々な場面で「私たちの道徳」を活用することを通して、自分を大切に、他と共に成長しながら自己実現を目指す生徒を育成する手だてを明らかにする。

「私たちの道徳」の活用のしかたの探求 ～道徳の時間におけるの効果的な活用方法を探る～

活用場面	活用方法	例
① 導入の興味付け	主題への関心の喚起	イラスト 写真 問題提起文
② 中心資料	理解を深化 経験の想起	記述の振返 詩 作文 絵 写真
③ 中心資料の補助資料	話し合いの参考資料 新たな価値、気付きにくい考えに気付く手がり	記述の振返 詩 作文 絵 写真
④ 体験の交流	自覚の深化	直接記入、内容の交流
⑤ 終末の考えを整理する 手助け	価値や考えの深化 学習内容の明確化	メッセージ 詩 名言
⑥ 事前や事後の関連づけ	学習・日常生活につながる問いかけ・投げかけ 発展的な投げかけ	



4 成果と課題

○成果

道徳の授業や教育活動全体で「私たちの道徳」を活用する成果は以下の通り

アンケート結果より(平成27年1学期末)

〈生徒〉「私たちの道徳」を使った授業は、「自分を大切にする」、「他と共に成長を感じる」、「深い自覚を促す資料である」という質問に対し、86.4%の生徒が効果的であると回答し、活用の有効性は生徒側からも検証された。

〈教員〉今年度の研究は道徳の授業を行う上で、「資料の選定」、「発問構成」、「話し合い活動」を重視した。生徒が、「問題意識を持つ」、「自分の考えを明確化する」、「知らなかった考え方にふれる」、「よりよい生き方を考える」、「より深く自分と向き合い考えることができる」などにおいて有効であることがわかった。

○課題

生徒が自分の良さを表現したり、自分の将来に対する夢や理想に向かって行動するための道徳的実践意欲と態度を育てることが課題であると考え。

①継続的な授業研究における指導力の向上

②道徳の時間における『私たちの道徳』の、有効・適切な活用方法の更なる模索

③他領域との関連や家庭・地域社会との連携

研究発表校の紹介

平成25・26・27年度 福岡県重点課題研究・委嘱事業
糸田町立糸田小学校・中学校「最終報告会」

【実施日】 平成27年10月23日（金）

【研究主題】

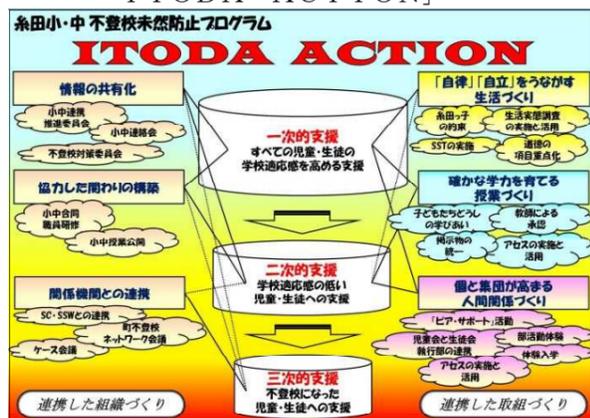
新たな不登校を生まない魅力ある学校づくり

～小・中が連携した不登校未然防止プログラム「ITODA ACTION」の取組を通して～

<研究の特色>

すべての児童生徒が学校に行きたくなるような魅力ある学校づくりのために、糸田小・中不登校未然防止プログラム「ITODA ACTION」(図1)を策定し、主に次に掲げる3つの視点で実践を行ってきた。

図1 糸田小・中不登校未然防止プログラム「ITODA ACTION」



児童会・生徒会合同あいさつ運動

視点1 「自律」「自立」をうながす生活づくり

学校生活を送るにあたって、規範意識を高め(「自律」)、自分のことは自分でできる(「自立」)児童生徒を育てるための生活づくりを小・中連携して行った。具体的には、中学校での校則を小学校が確認し、それをもとにして小学校で生活のルールを作成したり、小学校で作成していた「学習時の姿勢」等を中学校でも作成し掲示したりすることで、生活規律・学習規律の統一を図っている。

視点2 確かな学力を育てる授業づくり

確かな学力を培う基盤としての「わかる」・「できる」実感を伴う授業づくりの工夫を小・中連携して行った。具体的には、小・中で共通した視点として「教員による承認」と「子どもたちの学び合い」の2つを取り入れた授業づくりを行った。また、二次的支援として、アセス(学校環境適応感尺度調査)の学習的適応の要支援領域にいる児童生徒に対する手だてを取り入れた。さらに、それらの授業づくりを深めるために、小・中合同研修会を定期的に行った。

視点3 個と集団が高まる人間関係づくり

すべての児童生徒が「自尊心」や「自己有用感」を高める集団づくりの工夫を小・中連携して行った。具体的には、小・中ともに「ピア・サポート」活動を中心とした学校づくりを行った。そのことを基盤として、小学校児童会と中学校生徒会の合同のあいさつ運動や合同の研修会を行ったり、小学校6年生に対する部活動体験や体験入学を行ったりして、中学生の自己有用感を高めている。また、二次的支援として、アセスの対人的適応の要支援領域にいる生徒を学校行事などで教員が意識的に見守り、自信をもって活動できるようにサポートしていった。

<成果>

- 糸田小・中不登校未然防止プログラム「ITODA ACTION」の実践により、新たに不登校になる児童生徒数が減少した。
- アセスにおける各因子の平均点が小・中学校どちらも上昇し、魅力ある学校に近づいた。

研究発表校の紹介

平成27年度 福岡県中学校美術教育研究大会 筑豊大会
公開授業 福智町立赤池中学校

【実施日】 平成27年11月6日（金）

【研究主題】

豊かな情操を養う美術科学習指導法の研究

～郷土の伝統・文化との関連を図る授業展開の工夫～

<研究の特色>

美術の授業における生徒が抱える課題としては、直接的な生活体験の不足による発想力の低下や技能上のつまづきからくる意欲の低下があげられる。そこで、表現及び鑑賞の題材設定及び展開にあたって、郷土の伝統・文化をいかに位置づけるかを工夫することにより、生徒の主体的な学習態度をひきだし、思考力・判断力・表現力等も含めた美術の基礎的な能力の向上につなげようと考えた。

<公開授業>

「郷土の文化を活かした卒業制作～自分たちの足跡を残そう～」 指導者 中島千鶴

○研究テーマ・サブテーマとの関係

- ①上野焼きについてゲストティーチャーを迎え学習することで、福智町の伝統・文化の芸術性の高さやよさを理解させる。また、実際に土に触れながら作品作りをすることで地元の伝統・文化を大切に、受け継いでいこうとする気持ちを育てる。
- ②共同制作をすることで、協力して上野焼きという形で作品が仕上がることで、そしてそれが卒業したあとも学校に残るといふことに喜びを感じさせる。

『教科における生徒の実践』 ○直接的な生活体験の不足による発想力の低下 ○技能上のつまづきからくる意欲の低下 ▽ 苦手意識の形成	『地域における生徒の実践』 ○地域の伝統・文化について深く知らない ○地域のお祭りに積極的に参加する ▽ 郷土を愛する心(郷土愛)が低い
--	--

美術科授業でのリンク

	「A表現」	「B鑑賞」
題材設定	○素材としての活用 ○技法・技能の直接体験としての活用 ○関連資料としての活用	○歴史・文化・美的価値の追求 ○異なる歴史・文化との比較
展開	①課題把握段階 ・作品例 ・素材体験 ②発想・構想段階 ・部分資料 ・制作体験 ③制作段階 ・つまづきへの支援資料 ④鑑賞段階 ・自作品との比較	①課題把握段階 ・参考作品 ②追求・比較段階 ・対象作品 ③交流段階 ・分析方法の例示作品 ④まとめ段階 ・ふりかえり用参考作品



出来上がった陶板のレリーフを組み合わせています。

<成果と課題>

「郷土教材」の開発が、生徒自身の郷土の再発見につながり、他の題材と比較しても、生徒の主体的な学習態度をひきだすことができたと考える。しかし、題材的にはまだ限られた数であり、さらなる題材の開発や蓄積が必要である。特に「A表現」における題材作りにも積極的に取り組まねばならない。また、郷土の伝統・文化についての調査や研究は、教師自身が時間をかけて行わねばならない面があり、美術科教員同士の交流が大切になると思われる。



研究大会展示会場の様子